キャラクター名
白々明 黎人（さざめ れいと）

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハィロゥ バロール	ワークス	UGNチルドレンB	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	19歳	性別	男
覚醒	素体	衝動	嫌悪	初期侵食率	31 %
出自	複数の兄弟姉妹がいる	経験	実験体	邂逅	忘却

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	0	0		1	1
感覚	4	1	0		2	7
精神	3	0	0			3
社会	1	0	0		1	2

HP	25
行動値	17
(非装備時)	17
戦闘移動	22
全力移動	44

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	2		ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	4	
運転：			芸術：			知識：ﾚﾈｹﾞｲﾄﾞ			情報：+1 UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ﾎﾞﾙﾄｱｸｼｮﾝﾗｲﾌﾙ	射撃	7r+2	-	+8		2:187p ﾏｲﾅｰ使用で命中+5 同ｴﾝｹﾞ不可

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
ﾎﾞﾙﾄｱｸｼｮﾝﾗｲﾌﾙ	
コネ：噂好きの友人	
コネ：UGN幹部	
コネ：要人への貸し	
コネ：手配師	
医療トランク	
コネ：研究者	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
No.05 実験体(ﾛｽﾄﾅﾝﾊﾞｰ)	P	N		
明智 紅輝	P 信頼	N 憤懣		
"タイクーン" 半田半蔵	P 尽力	N 不安		
"グリィズル" 山田餓狼丸	P 尽力	N 脅威		
紺野 当璃	P	N		
青烏	P	N		
任務	P	N		

最大財産P:	12	残り財産P：	8

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
ｺﾝｾﾝﾄﾚｲﾄ:ｴﾝｼﾞｪﾙﾊｲﾛｳ	3	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	-	-	
効果：	C値を□LVする(下限7)							
天からの眼	3	2	ﾒｼﾞｬｰ/ﾘｱｸ	-	-	対決	-	
効果：	EA23p 判定D+LV個							
ﾚｰｻﾞｰﾌｧﾝ	3	3	ﾒｼﾞｬｰ	-	範囲(選択)	-	-	
効果：	EA25p 範囲(選択)に変更 同ｴﾝｹﾞ不可							
ﾋﾟﾝﾎﾟｲﾝﾄﾚｰｻﾞｰ	5	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	対決	-	
効果：	EA24p 装甲無視　攻撃力-[5-LV]							
ｱﾌﾀｰｴﾌｪｸﾄ	3	3	ﾒｼﾞｬｰ	-	単体	対決	ﾘﾐｯﾄ	
効果：	EA26p R中対象が受けるﾀﾞﾒｰｼﾞ+[Lv×3]							
ﾏｽﾋﾞｼﾞｮﾝ	3	4	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	対決	100↑	
効果：	EA26p 攻撃力+[LV×5]							
ﾐｽﾃﾞｨﾚｸｼｮﾝ	1	5	ｵｰﾄ	視界	単体	ｵｰﾄ	-	
効果：	EA24p 範囲/範囲(選択)を単体に変更							
ﾃﾞｨﾒﾝｼﾞｮﾝｹﾞｰﾄ	1	3	ﾒｼﾞｬｰ	至近	効果参照	自動	-	
効果：	EA35p 要はどこでも○ｱ。							
天使の絵の具	1	-	ﾒｼﾞｬｰ	視界	ｼｰﾝ(選択)	自動	-	
効果：	EA27p 映像を大気中に投影する。							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

【コピペ用】
PC1：さざめ れいと
CN：矢射る暁神（アークドアポロン）
エンジェルハィロゥ / バロール

カラーコード：潤朱　D75F55

【備考】
明るく朗らかで喋り好き。おしゃれ好きで、髪型を毎日変えたりメイクをしてみたりするため女子ともよく会話が弾む。
かわいいものが好きで、たまにぬいぐるみを買ってきてはベッドの横に飾っている。
みんなでワイワイするのが好きで、独りでいるのが嫌い。暗いところと狭いところは特に苦手。
あとは食事を汚く食べる人と、不潔な人を見ると嫌な気持ちになる。

孤児院出身で、その孤児院はいわゆるオーヴァードの実験場だった。たくさんの子供達が実験される中に自分もいた。
自分は成功体で優秀な個体だった。失敗作と呼ばれた子供たちは雑に扱われ、ジャーム化していった。
そんな地獄からすくい上げてくれたのが半田支部長。
実験施設である孤児院に突入し、そこにいた子供たちを救出し、その後に自分の支部へと受け入れてくれた。

家族のように育った支部のみんなや支部長に強い家族愛を抱いている。
その反面、役に立てなければジャーム化して死んでいったあの子達と同じになってしまう、という強迫観念がトラウマのように染み付いている。
だからこそ早くみんなの役に立ちたくて、血を吐くような努力で実力を付けた。
しかし支部長には過保護にされて危険な任務を回してもらえず、焦り、あの一件へと繋がってしまった。